

彦根市における「国スポ・障スポ」開催に向けた道路整備について

滋賀県 彦根市 建設部 道路河川課

1. 彦根市の概要



彦根市は、琵琶湖域を除く面積約98km²、人口約11万人の琵琶湖東部に位置する地方都市です。市域の北端で鈴鹿山系に続く山並みが琵琶湖岸に突き出て狭い部となり、交通の要衝として古くから京阪神、東海、北陸を結ぶ結節点として交流が盛んに行なわれ、宿場を中心とした街道筋の発展や湖上交通の拠点としてその歴史を育んできました。また、江戸時代のはじめに、井伊家の居城「彦根城」が築城されて以降は、城下町として政治、経済、産業などの交流の中心として地域の先導的な役割を担い、今では、名神高速道路や東海道新幹線、JR



東海道本線、国道8号などの幹線が市内を通り、これらの利用により、京都、大阪や名古屋などの主要都市へ1時間程度で往来できるようになり、交流が行なわれています。

また、鈴鹿山系のみどり豊かな山並みや琵琶湖岸に広がる美しい風景は、爽やかな涼を求めるにも絶好の位置にあり、勇壮な姿を天下に誇ってきた「彦根城」周辺へと多くの観光客を誘っています。

「彦根城」は、国宝に指定された現存天守を有し、国の世界文化遺産の暫定一覧表にも掲載されており、令和9(2027)年の世界遺産登録を目指しています。



国宝彦根城天守

2. 「国スポ・障スポ」に向けた道路整備を計画

平成25年7月、滋賀県での国民体育大会(国民スポーツ大会「国スポ」)・全国障害者スポーツ大会「障スポ」の開催が決まり(内定)、その主会場が彦根市の「彦根総合運動場」となりました。当地は、昭和56(1981)年の国民体育大会での会場となっており、彦根市での開催は2回目となります。そして、主会場となる「彦根総合運動場」は滋賀県により整備されることとなり、規格に適合した陸上競技場の改築工事に着手されました。その後、令和4年7月に、令和7(2025)年の開催が正式に決まり、「彦根総合運動場」は「彦根総合スポーツ公園」と名を変え、陸上競技場は令和5年4月に供用を開始し、現在、残す外構工事が進

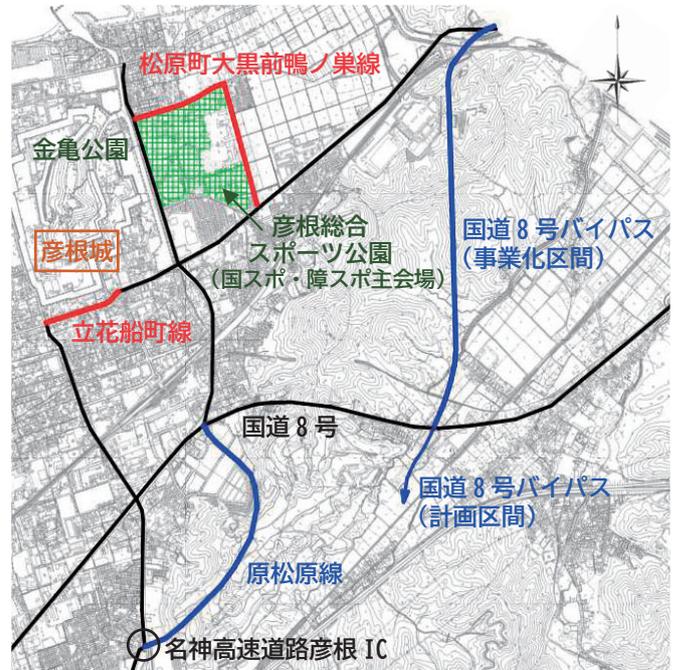
められております。

また、彦根市においては、道路や河川の周辺環境整備を担い、その一つとして、主会場に接し、アクセス道路となる道路整備を行なうこととなりました。

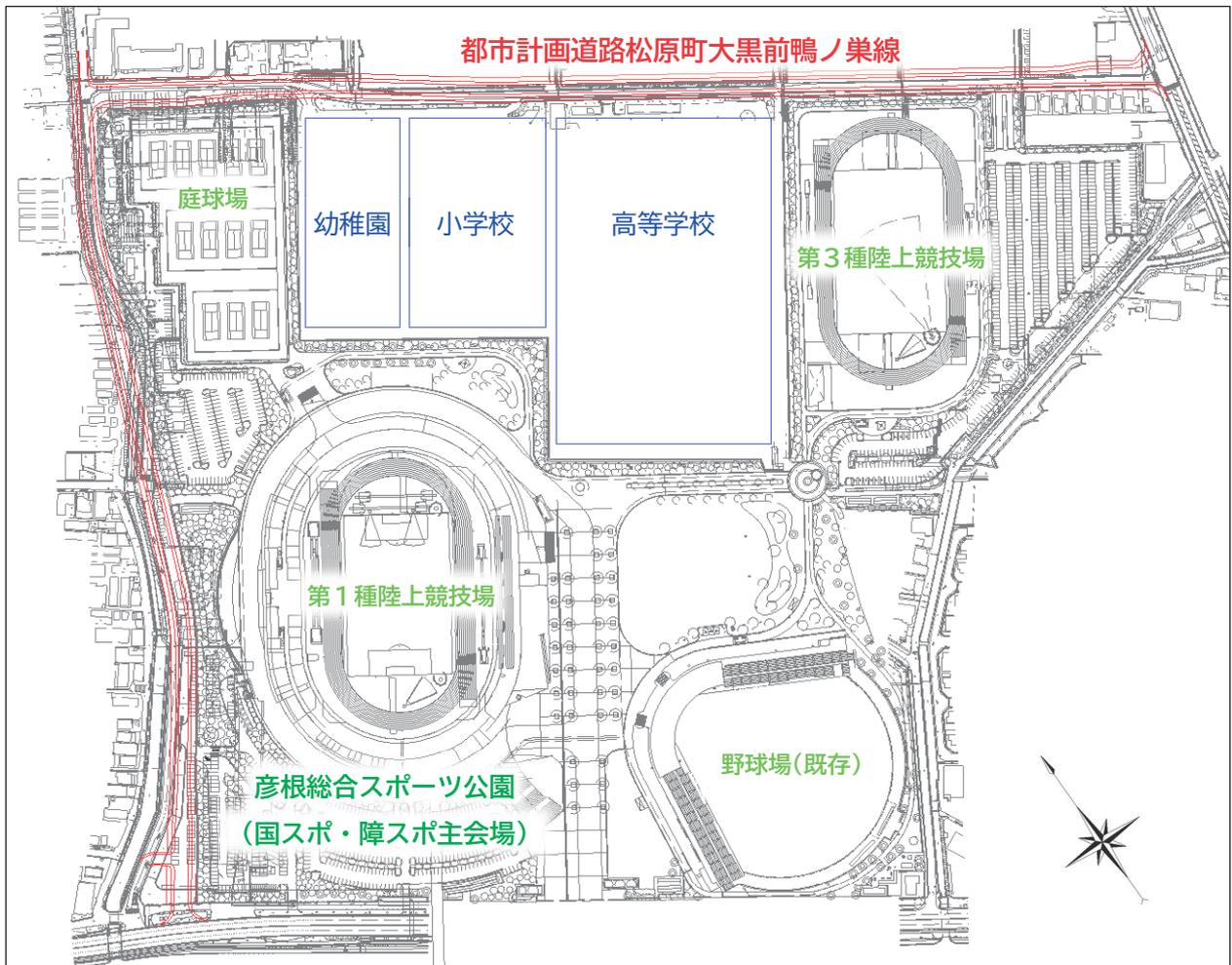
ここで、彦根市の道路特徴としましては、築城当時の彦根城が存するように、彦根城周辺では旧来の街なみが色濃く残っており、なかでも、城下町特有の“あえて”通行がしにくい道路、「どんつき」、「くいちがい」と呼ばれる連続性がない道路や狭あいな道路が多いため、交通渋滞や防災面から既存道路の拡幅や新たな道路整備が求められますが、歴史・文化遺産の保全の観点もあり、整備を進めるうえでは課題となっています。

こうした状況ですが、都市生活の基盤となる都市計画道路について、特に市民生活に直結し、より効果的な道路整備を優先に進めることとしており、今般、「国スポ・障スポ」が開催される契機に、主会場へのアクセス道路の整備を計画しました。

また、この道路は既存の道路を活用した新たな都市計画道路として整備を進めますが、沿線には、小学校や幼稚園、高等学校が立地しており、児童、生徒の通行が多く、狭あいで歩道がない既存の道路は、通



「国スポ・障スポ」主会場周辺の位置図



都市計画道路松原町大黒前鴨ノ巣線 計画平面図

学路としての危険性が指摘されていたため、それらの改善をあわせて行なうものです。

このような位置づけや課題を解決するため、既存の道路を新たに都市計画決定し、都市計画道路として整備することとしたものであります。

- ・道路名：都市計画道路松原町大黒前鴨ノ巣線（都市計画決定：平成28年12月28日）
- ・事業認可：平成29年2月8日から令和7年3月31日
- ・総事業費：985,400千円
- ・計画延長：L=1,200m（計画幅員：W=16.0m）
- ・事業主体：彦根市
- ・事業財源：国費（社会資本整備総合交付金：～令和3年度、交通安全対策補助金：令和4年度～）

3. 「旧内湖」への対策

都市計画道路を整備する当地は、もともと琵琶湖につながる「内湖」であり、戦後の食糧増産を目的に、湖水を排水し干拓農地として利用されてきた場所です。このことから、土地の地盤が周辺に比べ低く、非常に軟弱であることから、その対策は道路整備にあたっての課題でありました。

まず、道路設計にあたり、地形の関係上、排水処理が課題となりました。周辺には市が管理する普通河川等がありますが、地形的に自然勾配での排水が不可能であり、揚水施設が必要となるため、整備には多額の費用を要するだけでなく、今後の維持管理も大きな懸念となりました。そして、このような地形的な課題は、周辺農地の排水についても同様であり、土地改良区が排水を集約し、ポンプによって下流の河川へ放流している状況にありました。そこで対応策として、この土地改良区の揚水施設を利用できないか検討することとなり、土地改良区のご協力を得て、揚水機的能力に若干の余裕があった施設を



干拓前内湖の様子（彦根市資料）



現在の様子



地盤改良（パワーブレンダー工法）

利用させて

いただくことができ、財政的な軽減だけでなく、令和7（2025）年の「国スポ・障スポ」開催までの供用開始という時間的制約がある中、大きく事業を進展することができました。

次に、当地は、先述のとおり干拓農地であり、地盤が軟弱であることから、道路整備にあたっては、沈下等を防ぐため、慎重に検討する必要がありました。そこで、当地における道路整備にあたっては、軟弱地盤対策として、種々検討した結果、支持層までの軟弱地盤対策が必要となり、中層混合処理を行なう「パワーブ

レンダー工法」を採用することとしました。これは、セメント系固化材などの改良材を軟弱土に鉛直方向に攪拌混合しながら連続的に水平移動させることにより多層地盤であっても連続した均質な改良体を造成する地盤改良工法であります。これにより軟弱地盤の改良を行ない、最初の工区を施工した後、3年が経過していますが、特に不具合は確認されていません。

4. 通学路の安全対策として

当地においては通学路の安全対策も課題でした。沿線には、小学校や幼稚園、高等学校の教育施設が連続して立地しており、当該道路を多くの生徒、児童が通行しています。しかしながら、道路は狭あい、歩道は一部しかなく、危険にさらされていました。平成24年、京都府において登校中の児童が自動車と衝突し、多くの死傷者を出す痛ましい事故が発生し、この事故をきっかけに「通学路」の安全対策が大きく叫ばれる中、本市においても、平成26年に「彦根市通学路交通安全プログラム」を策定し、学校、教育委員会、警察と道路管理者が合同で点検を行ない、危険箇所の対策を図っていく中、当該道路につきましても危険箇所として抽出され、歩道設置を含めた道路整備により安全対策を図ることとしました。



従前の道路（通学の様子）

こうした課題を解決し、地権者を始め関係者の皆様のご理解ご協力を得て、利用者がより安全に、より快適に通行できるよう、道路整備を進めました。

5. 「国スポ・障スポ」開催後を見据えて



主会場となる「彦根総合スポーツ公園」（競技場）の完成イメージ図

令和7(2025)年の「国スポ・障スポ」開催に向け、道路整備や主会場整備が着実に進み、陸上競技場の開設など周辺の様子は大きく変化しました。

「国スポ・障スポ」の開催に向けては、市による都市計画道路立花船町線や松原町大黒前鴨ノ巣線をはじめとする道路整備、主会場に隣接する金亀公園の再整備、また、滋賀県が実施する、「都

市計画道路原松原線」の整備、国による「国道8号バイパス」の整備など、いずれの道路も、令和7(2025)年の「国スポ・障スポ」開催までの供用に向けて整備が進められており、今後、交通のアクセス性や円滑化だけでなく、スポーツ施設や都市公園等を活かしたまちづくりが期待できます。

さらに、彦根城は、令和7（2027）年の世界文化遺産登録を目指しています。このように、「国スポ・障スポ」の開催、彦根城の世界文化遺産登録と大きなプロジェクトが迫っており、円滑な交通の流れや彦根市へ訪問される方への誘導、また、市民生活の利便性向上や防災・安全面のために道路整備は必要であります。

今後も、市民の皆様のご理解ご協力を得て、引き続き、事業を進めてまいりたいと考えています。



整備中の国道8号バイパス（国施工）



完成した松原町大黒前鴨ノ巣線（左は高等学校）



整備中の原松原線（県施工）



完成した松原町大黒前鴨ノ巣線（右はスポーツ公園）



整備中の立花船町線（市施工）

令和7（2025）年、滋賀県で「国スポ・障スポ」開催！

2025
滋賀県開催

第79回国民スポーツ大会
第24回全国障害者スポーツ大会
滋賀国スポ・障スポマスコットキャラクター
「キャッフィー」・「チャッフィー」

湖国の感動 未来へつなぐ
わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

